詩画集　（超限定私家版）

第Ⅱステージ・還暦19歳の春

ススキ・エノコさま
髪がススキで
眉と鼻筋はエノコログサ
唇がアカマンマです
秋の散歩道で
ようやく出逢った理想の女性です

山上（やまのうえの）　村人（むらひと）

詩画集　第Ⅱステージ　十九の春

冬の丘のドラマ　4
北欧の初日の出　6
冬の百合　8
ここから～ここまで　10
見えない　聞こえない　12
鷲は怒っている　14
これも少し　あれも少し　16
吉野山伝説　18
幸せ遊び　20
断片　22
夢の国案内所　24
推理小説考　26
自殺考　28
大企業の長　30

キンカンの再会　32
人の裏ワザ　34
名無しの梅の木　36
一日終る　38
ジジババの化粧　40
想い　42
夢の証拠　44
季節の便り　46
星に祈る　48
言葉だけ　50

冬の丘のドラマ

何もない冬の丘の上に
今朝は灰色の幕が上り
久しぶりに青空がのぞいている
このステージには時折り
バードウオッチングの者なら誰でも
息をのむ色鮮やかな野鳥が横切り
様々な形の雲が現れる
やがて日が暮れると豪華な夕焼けが見られる
そして夜の帳(とばり)が下りれば
ナレーションなしで朝まで太古からの星座が登場する
そんな夜空を峠で明け方まで
一人で観測している人がいる
彗星観測にとりつかれた方である
獣道(けものみち)でそんなことをしている人間に訪れるのは

夜行性のスナネズミやクマである
その星空を観測していた人がつぶやいた
星空には音楽がある！　※
それはバッハの協奏曲第3番に似ているという
観客がいない冬季にも
月に一度豪華な満月の宴（うたげ）がある

何もない冬の丘がある
春には青い芽が出て様々な野草が咲く

観客は時折犬をつれた私が一人
立ち止まり　感嘆している

北欧の初日の出

北欧のラップランドでは一月十日の日の出は
二ヶ月ぶりだ
待ち焦がれた太陽を見に
大人も子供も列をなして海岸に集う
でも太陽が顔を出す初日(しょにち)の時は短い
地平線に顔を出すとすぐ沈んでしまう　※
気温はマイナス二十度以下
明日からは地平線より太陽が顔をみせる
防寒服の顔は皆笑っている
その日から太陽は
地表から離れ始め十五分ずつ長く地を照らす
そして豪華な光のカーテンのオーロラは
太陽が顔を覗かせる季節になると次第に姿を隠す

それからタラ漁が始まる
荒れた海での海難事故は昔から絶えない
冬の海の事故はほぼ助からない
海辺に漁に出た夫を待つ像（すがた）がある
銅像になって帰ってこない夫や息子を
待つているのである　いつまでも
北欧の夜の明かりは幻想的だ

この地では長い間自殺率と離婚率が世界一
生きにくい極寒の地である
休眠中の針葉樹の森がある
サンタクロースはここで生まれ
北欧のメルヘンはここで生まれた

冬の百合

季節外れの百合の蕾がある
見つけたのは昨年の暮れだ
地表３０センチほどの低い茎に
一つだけ蕾をつけて
季節外れの百合は寒風の中で膨らむこともなく
枯れることもなく
年が明けても首を垂れ寒風に耐えていた
季節外れの稲が立ち枯れになるように ※
育つことはあるまいと
毎日意地悪く見守っていたが
正月飾りが取れた一月十一日蕾みの先が少し割れてきた
この世界に
誰か出会いたい人がいるのだろうか
蜂も蝶も来ない季節

1月11日

いるとすれば虫や人間以外のはず
もし咲いたところで
人知らず蜂も蝶も知らず
知っているのは私と犬しかいないが
犬はまるで関心なさそう
何のために　誰に出会うためなの　？
屈んでカメラを向けたとき
小さな声が聞こえた
似たようなもんじゃない

八千代市林照寺子安観音

ここから～ここまで

動物達は丸ごと食べるのに
人間は包丁と俎板(まないた)で食べにくいところを切り取る
根や尻尾や魚の頭や骨を捨てる
こうして手慣れた料理人は
柔らかくて美味しい料理をつくる

人の世界には包丁と俎板がある
俎板の上で切り取るのは
固い所や苦い部分である
ただ手際のよい人とわるい人がいる
一日で別れてしまえばよかったのに…
一年で別れてしまえばよかったのに…
二回目でやめておけばよかったのに…
三年で別れてしまえば良かったのに…

草の実の自画像

人の世で悔いが残るのは
俎板で大根を切るように
丁度良い時間を切り取ることだ　と反省している
私は下手な料理人
包丁裁きが下手で　ここ迄　この辺で と
素早く、さわやかにカットすることができなかった
それで骨が喉に刺さったことがある
腹痛で七転八倒したことがある
寝られなかった夜がある
今も料理の腕は未熟だ
ここ迄のけじめが未だ分からない
この世界に長居をし過ぎているかもしれないと
お酒を飲むようになった
お酒のつまみは子供の時食べなかった
苦いもの　辛いもの　酢の物が美味しい

月とススキとお酒

見えない　聞こえない

木に登れば川が見える
石段を上ると町が見える
山に登ると海が見える
高く登ると見えなくなるものがある
草叢（くさむら）の赤い実
草の葉裏に隠れたテントウムシ

人の世の階段を駆け上り人の上に立つ
百人の長がいる　千人の長がいる　万人の長がいる
数が増えるにつれ個人の区別は分からなくなる
一人一人の人間が分るのは十人くらいまでだ
それで野球は九人
サッカーは十一人
釈迦の弟子は十人

キリストの弟子は十二人だ
（一人多すぎたかもしれない）

目がいいのに 見えない人がいる
群れの中で笑わなかった者
黙って去って行った者の背中
耳が良いのに聞こえない人がいる
隣人の呟き
俯いていた女の心
どこかで子供の泣き声
同じ国の言葉でも通じないのに
動物や鳥や異界の国の言葉が分かる者がいる
生きているけれど返事のない死人がいる
死んだ人だけど今も話しかける人がいる

時折　私の視野をかすめ
通り過ぎるもの影がある

野麦峠　祈りの道

鷲は怒っている

思い通りいかないと
喚(わめ)き暴れる子供は
大人の縮図(しゅくず)を見るようで可愛くない
欲しいモノが得られない
自分のものが奪われる
そこで怒るなら分るが
野鳥達の頂点に立ち制空権を得ている鷲は怒っている
鷲は幸せではないのだ
その目つきは暗く猜疑心(さいぎしん)と怒りに満ちている
草原の王者虎もライオンも同じだ
そういえば人間も似ている
国を制覇(せいは)したもので優しい者がいただろうか
歴史を垣間(かきま)見ると信長は残忍で
秀吉は品性卑(いや)しく手段を選ばなかった

ワシは翼開長２２０～２５０㎝あるぞ。

鷹はランク下の１００～１３０㎝

海の覇者はシャチや鮫だが虎やライオンの目と同じだ
牙を持たない兎や羊を見よ
小魚を見よ　イワシを見よ　スズメを見よ
生態系下部の生き物の目は何故かみな丸く優しい

空の王者　海の王者　地の王者もみな似ている
その創造神はさらに凶悪で恐ろしいものと怯え
古代人は怪異な偶像を作り生贄を捧げた

この世界は天上界と地獄界でできている
ここは地獄界だという説がある
生態系下部のものは醜悪なこの世界を
つぶさに見学し手帳に書き留め天上界にいくのだ
という人達がいる　思い当たる節が多い　※
それを知った鷲は今生から来世に続く
救いようのない己の使命に怒っているのかも知れない

ハプスブルク家紋章

これも少し　あれも少し

何か一つ選んで真っしぐら
群れの中でトップに躍り出る
特にこれは男の美学だ
自分は子供の頃から群れが嫌いだった
理由の一つは腕力に自信が無かったからである
今でも駅の階段を登るときは最後尾で待っている
さらに　子供の頃より優柔不断であった
小銭をもって近くの駄菓子屋にいくと
なかなか買い物が決まらなかったという
みな欲しいもの食べたいものばかりで
あれも少しこれも少しと迷ったのである
「坊や　大きくなったら何になる?」
利発な男の子は目を輝かせて答える
私は何か一つ選ぶことが出来なかった

一つを選ぶと他のものになれないからである
優柔不断の上に欲が深かったのである
人生の晩年を迎えいまだ優柔不断である
怒り悲しみ殺されて死んだキリストの言葉は生々しい
高齢まで生き人間以外のものにまで囲まれ死んだ
釈迦の言葉はこの世界の真実だ
日本古来の神道は私のＤＮＡに刷り込まれている
イスラム教は怖い宗教だが
スーフィ教の導師は仙人と同じだ
そんなことには関心のない科学者のお話も面白い
宇宙人や妖精はいるかいないか
まともな教養人の前では共に否定し
子供の前では回りを見渡してから「いる‼」と答える
煮え切らないので未(いま)だある宗教の方達が冊子を届けに来る
あれもよさそう　これもよさそう
神様　仏さま　これで終わります

吉野山伝説

吉野山は千本桜で有名な桜の名所である
桜は三七ヘクタール(六km四方)の地に
シロヤマザクラを中心として二百種三万本あるという

満開の季節は子共だけではなく大人も迷う
踏み込むと二度と出られない樹海があるが
吉野山は桜の頃になると
時空の扉がひらく
ここは奈良時代大海人皇子(おおあまのおうじ)が一時隠棲(いんせい)していた
鎌倉時代　義経は静御前(しずかごぜん)とここで別れた
花影には今も静御前が佇んでいる
西行法師が何かしたためている
秀吉が開いた盛大な花見の宴が聞こえる
満開の桜の下　吉野山は過ぎた時空が交差している

伝説によればこの山里の何処かに一軒の吾妻屋(あずまや)がある
昔からそこには美しい娘が一人住んでいる
ある日道に迷った一人の男が立ち寄った
男は美女と一夜を共にし再会を約束して帰宅した
翌日里に帰った男は三年も留守にしていたことを知り唖然とする
その後男は必死に探したが吾妻屋も女も跡形もなく消えていた
この話は伝承に寄れば平安時代に一度
鎌倉時代に一度
江戸時代に一度ある
男の話によれば美しい女は狐狸(こり)とは思えない
桜の精ではないかというのである
これは葉桜の頃麓の茶屋の老婆から聞いた話である　※

幸せ遊び

楽しいことは前から知らせて
三日前に知らされた喜び事はそれまでの三日間も幸せ
百日前に知らされた旅行は百日間も待ち遠しく幸せ

だから嫌なことは前から思わないほうがいい
その時まで知らなければその時だけで済む
忘れていたら消えてしまったガン細胞がある

天国にいく人がいる
そう思っていない人でも天国にいくが
信じていた人は大儲(もう)け
途中辛いことがあってもみな過ぎてしまう

小さな幸せなら誰でも得られる
心が少し曇っている日は

顔を出すと喜ぶ人を尋ねよう

入院している人に手紙を書こう

美味しいものを買ってきて誰かと一緒に食べるのもいい

互いに好きな曲を楽しむのもいい

花屋で今咲いている花を買ってくるのもいい

蕾ならさらにいい

一番安上がりなのは

誰かが喜び自分も嬉しいそんな幸せの種を

ところどころに蒔いて待っていることである

そうすると芽が出る迄が幸せ

蕾が膨らんだ時が幸せ

開花した時は万歳

長い間の時間が全部幸せになる

断片

もしかして　このまま…
病院で考えている人がいる
もう会うのはやめよう…
別れた後呟(つぶや)いている人がいる
電話をとりかけてやめた
無駄なこと…と気が重くなったのである
今日は朝から雪が降りそうな気配
午後になって風花(かざはな)が舞いだした
様々な思いについに
空が堪えきれなくなったのである

角を曲がったきり
いなくなってしまう人がいる
急いで駆けつけてもその人はいない

曲がったとたん消えてしまったのだ

消えてしまったものが
ある日また戻ってくることがある
でも以前の姿とは違う
雀は目があったとたん
すぐ飛び去ってしまった
目があった瞬間葉裏に隠れたバッタがいる

蟻が立ち止まっている
千年前ここで何かあった

百合が俯いて考えている
人はそれぞれの思いで生きている

夢の国案内所

人が夢を見るのは短い予告編だけだ
続きを見たいと叫んでも一度閉じてしまった夢の扉は開かない
その昔夢の国には誰でも入れたが
夢を壊すものがでてから鎖国された
それでもその江戸時代唯一の玄関口「出島」があったように
特別のパスポートと保証人があればそこに行ける小数の人がいた
入国資格は七歳以下の子供と心の清きものだけ※
保証人は人に限らず小さな生きものがサインすることが多い
「私は夢の国をこわしません」
浜辺の砂に誓約書を書き最後に保証人がサインすればいい
書き終えると波が確認して記憶の書庫に運んで契約終了。

夢の国会員の特典

1　夢の続きが見られる

2　手荷物制限内であれば夢の中のものを持ち帰ることができる

民話「一寛の終わり」より

（この世界にある美しいものはみな夢の世界のものだ）

3　ビザ無しでいつでも夢の世界にいける

4　そのまま夢の世界に移籍できる（毎年の行方不明者約八万人のその一％が夢の国へ移籍）

5　無くなったものが見つかる　亡くなった人と会える

禁止項目

1　夢の国で見たことを七歳以上の人間に話してはいけない（話すときは ユメ物語として話すこと）

2　夢の中で見たことを先生とか学者とか特にエライ人には話さない。

3　夢の国で知り得たことを自分のために利用してはいけない（時空がフリーパスなので万馬券が分かる）

パスポートを貰ったら寝る前に暗証番号を唱え百数える

まもなく村はずれの小さな観光案内所がフェイドインする

人間が留守の時は小鳥やトンボがガイドする

夢の世界には　乗り物がない　薬がない　お店はタダなのでお金が要らない

空があり　山や川があり　町や村があるが大都市はない

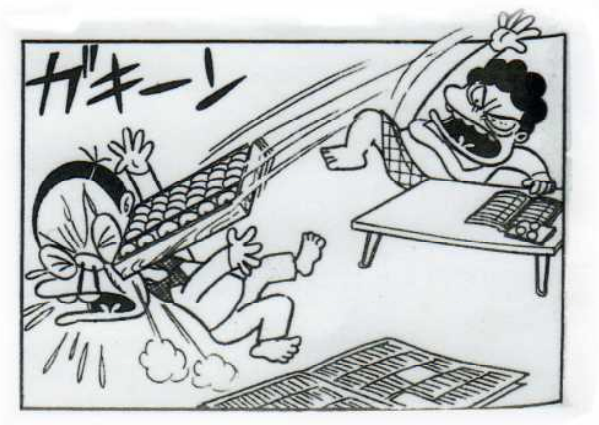
小鳥や動物と話せる　何でもあり　すべて思うがまま

話が合うと魚になってサンゴ礁を泳いでいる人もいる

私はいつか鳥になって大空を飛んでいる

推理小説考

ある日あるところで誰かが殺される
状況判断、アリバイなし、犯人らしいものが浮上する
やがてほぼ決り、というところで名刑事登場
名刑事の嗅覚がまさかの人物をクローズアップする
悪徳非道のワルを逮捕するのはドラマとして見られます
水戸黄門のロングランはその庶民の要望である(黄門が通り過ぎれば元どおり)
移民出身の**コロンボ刑事**が摘発するのは上流階級の知能犯でこれは面白い
ところが和製の刑事モノは違います
上司にはバカで権力志向者がいます(本当だからでしょうか?)
主人公のアウトサイダーの刑事の代表は**杉下右京**、高学歴です
TV局が作者に書かせるストーリーは普通の人間を
　どこまで追い詰めたらコロシをするかという好奇心の私小説です
コロンボ刑事はエリートの権力者を摘発しますが
和製番組の真犯人は普通の(普通以上の)庶民が真犯人です



古谷三敏　オニババ

そのような人間がなぜ大罪を犯したか
その悲惨な経過が克明に語られる
そんな悲惨、過酷、屈辱的な状況に置かれて、それでも罪を犯さない人がいるだろうか？と思います
「いいじゃなの。いまさら。それより悪いやつがこの世にはいっぱいいるぞ」
　見逃がしてやれ！茶の間でビールを飲みながら叫ぶ
「理由の如何を問わず殺人は殺人だ。出頭して罪を贖いなさい」
と録音テープのように杉下右京がリピートします
一件落着後、和製の刑事モノは何故か仲間同士でじゃれあう一幕がある
ところで刑事さん。いかなる状況とは言え一人の殺人は許せないが
　大量殺人はよいのだろうか？
自然災害は一度に大量殺人をする
それだけで十分と思うのにどの国もパレードつきの軍隊がある。
この世界でコロシはザラ。戦闘機　軍艦　ミサイル　全てコロシの道具である。
ローマのコロシアムではキリスト教徒をライオンに喰わせたり、奴隷剣闘士に殺し合いをさせた
　庶民はそれを弁当持ちでいそいそ見物に出かけたのだ
自分に関係のない不幸やコロシが娯楽なのは昔から続いている

ゲルニカ

自殺考

自殺は大罪である、と聖職者達は口を揃えていう
自殺した者の罰は重く、あの世でも続くとまことしやかに言う
平均寿命を超えても更に長寿をのぞむ者が多い
一方自ら命を捨てる健康な者が日本だけで毎年三万人以上
世界では百万人以上いるという
大都市が一つ(仙台市、さいたま市)が忽然(こつぜん)と消えてしまうのだ
この数は戦争や殺人を上まわる
まして未遂や悩む者は十倍以上(千万人以上!)いるはず
信仰のある者の悩みは深い、過去キリシタンの弾圧の中で
細川ガラシヤ夫人は我が身を家来に槍で突かせた(家来は殺人幇助(ほうじょ)罪)
自殺を禁じられたクリスチャン達は火刑(かけい)、磔刑(たっけい)の極刑を強いられた
まじめな信徒ほど自殺は大罪との聖職者の言葉に悩む
医師は自分の処方に従わない患者が不快なように
聖職者は自分の説教が役に立たない者が憎いのであの世に逃げたものまで許さないのだ

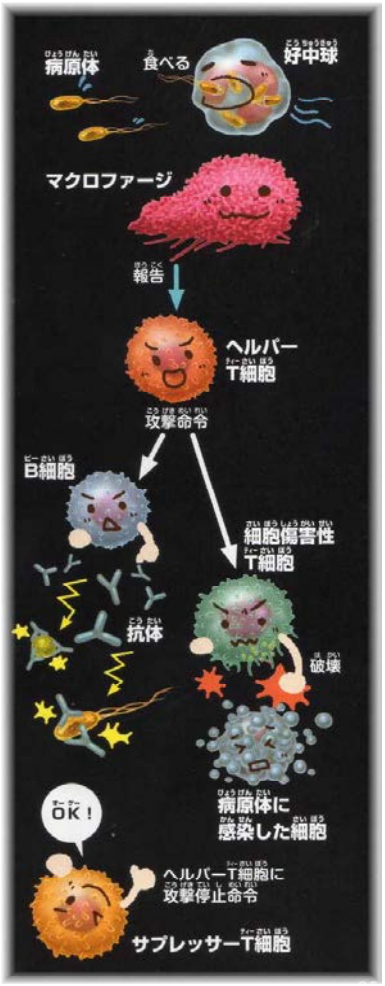
アーミッシュ　少年達

因みに仏弟子アーナンダは自分の遺骨を巡る争いを避ける為ガンジス河船上で焼身自殺した
ユダは罪を悔い縊(いし)死した
「可愛そうに、生まれてこなければ良かったのに…　」キリストは悲しんだ
他者の命を奪う殺人の禁止は十戒や五戒にもあるが自殺には触れていない。
これは聖職者のウケ狙いで、間違った報道でも真面目そうなＮＨＫのアナウンサーが言うのと似ている
この世に生を受けた者は全て幸せでなければならない
自殺の大罪はそのような状況をつくったものにある
一　日々自白を強いられて拷問(ごうもん)を受ける。自白すればその方たちが殺されるか苦しむ
　生身(なまみ)の体はそれ以上の拷問に耐えられず自害した
二　業病で死の床にあり苦痛に呻いていた。安楽死を切望していたが他人は恐がり
　肉親が生命維持装置を外した。
三　多くの子供達の自殺　等
このような者達をなぜ死んだ後まで鞭打つのだ
鉄道自殺とか、遭難死とか事後迷惑をかける死に方は良くない
苦痛のない死に方もあるのに、苦痛で終わる死に方は良くない
ー信なき者の祈り　この世は何のためにあるのかー

アーミッシュ　姉妹　※

大企業の長

大企業とは千人万人の社員がいることである
広い敷地に工場がいくつもあり
世界中に生産拠点や販売網がある
ところで私も特殊な大企業の代表である
創業の地は七百万年前のアフリカ東部である
ご先祖はチンパンジー一家と袖を分かち草原を歩き始めた
人類の母ルーシーおばさんが登場したのは三百万年前後だが
正式に人類として登記したのは二十万年前といわれている
申し遅れましたが私は私という身体の代表である
人体の大きな組織区分としては五体がある
手足その他皆私のブレーンということになっている
五体にはそれぞれ膨大な縦割り横割り組織があり
筋肉、血管、神経、内臓など末端の構成員の細胞まで数えると
三七兆二千億ケ(60兆は過剰申告)ある



戦う免疫細胞組織図

免疫細胞の戦い方

免疫細胞は、すぐれたチームワークをもっています。病原体が体内に侵入すると、はじめに好中球が、その次にマクロファージがやってきて病原体を食べます。マクロファージから病原体の情報を得たヘルパーT細胞は、B細胞と細胞傷害性T細胞に攻撃の指令を出します。B細胞は抗体という武器を使って病原体を攻撃します。細胞傷害性T細胞は病原体に感染した細胞を破壊します。最後にサプレッサーT細胞が攻撃を停止させるのです。

白血球(五族)や寄生虫は全て独立した生きもので多国籍企業である
大企業の経営者が末端の社員を知らないように
私も一人一人のスタッフとは面識(めんしき)はない
ましや腸内雑菌にいたっては膨大な数の悪玉グループ善玉グループの二大派閥(はばつ)があり
日和見(ひよりみ)菌までいて呆れている　※
この巨大な組織も何度か存亡(そんぼう)の危機を迎え入院したことがある
それで今も外見上分からないが身体の一部がない
最近手足内臓五感めらが会長の私の言うことに従わず
効果のない様々な薬など要求する
活性酸素とは名ばかりの悪玉酸素も油断できない
三七兆の平和を願い私が笛吹いても踊らずかなり気分を害している
「こんな会社辞めてやる！」今期限りで辞職する予定である
退職後はどこも痛いところが無くて天気がよければ
特になりたいものは思いつかない

キンカンの再会

ある朝
キンカンの実が根元に集まっていた
昨日までそれぞれの枝で
別々に暮らしていたのだ
蕾みが膨らんで
花が咲いて
ようやく朝焼けの色になったので
昨夜次々とパラシュートで地表に降りたのだ
上のほうは何が見えたの？
昼は太陽　夜は星が見えたよ
反対側のほうの景色はどうなの？
雲が動いていた　雨上りには虹が見えたよ
葉陰で会話をしていた仲間達
時々来る小鳥から聞いてはいたけど

T・M

あなたがどんな人か分からなかった
逢ってみるとみんなミカン色で楕円形をしていた
同じ一本の木から生まれたので
みんな似てるね
やっと　逢えたね
これからどこに行くんだろう
みんな夢の国へいくんだって
「ふーん」
お正月久しぶりに再会した家族のように
誰もが寄り添って笑っていたので
そこだけの空間が明かるかった

人の裏ワザ

新幹線の先頭部はカワセミを真似たものである
マジックテープは野草の種子から学んだものである
接着剤を使わない吸盤をヤモリの足から開発しているが
未だヤモリの吸盤には及ばない
人間の開発した薬の抗体をすぐ作ってしまう病原菌達
みなラボ(研究室)など持たず専門大学をでていない
「誰が風を見たでしょう♪」９９％の窒素や酸素は見えない
最近謎のフィッグス粒子は宇宙空間に詰まっていることが判明した
それは世界中の空の倉庫や押し入れに昔から詰っていたのだ
私の爪の垢につまっている素粒子は未知の惑星にも広がっている
世界は不思議に満ちている
それぞれにきまりがあり難しい数学があり知恵がある
「世界には何か意思がある！」
それをサムシング・グレートと名づけた人がいる

サムシング・グレートは広大過ぎて顔がない
その昔神が住むという岩山を訪ねた者がいる
神は人前に姿を現すことはなく
《私に名をつけてはいけない。顔や姿を作ってはいけない》と告げた　※
その御言葉に不満を感じた人間は女神やお地蔵様をつくった
私は学者でもない　権力者でもない
岩戸を開けた天手力雄命(アマノタヂカラオノミコト)のような力持ちでもない
偉大なるかな　サムシング・グレート！
そのサムシング・グレートにもできないことで私ができることがある
私にしかできないこと　それは
ある方に折にふれ声をかけること　（人によって…　）
ある方に小さなプレゼントをすること　（迷惑でない方に…　）
神ができないことを私にしてくれた人がいる
この世界に蟻の足跡ほどの痕跡を残さなかった母が私にくれたもの
何人かの方が私にしてくれたこと
神にはできないが人にできるたくさんのことがある

メンハタオリ

名無しの梅の木

ただの町外れの場所がある
あなたは何のためにいるのか
何処へいくのか
そんなことも答えられず
日々生きているだけ　という人もいる
そんな人が犬に連れられて散歩をしていた
男は満開の桜に気づいていたが
小川が流れていてそこへいく道が見当らない
公園や庭に咲いている花は人が見るためだが
人の世界の向こう側に咲いている花もある

大勢の役に立つ人は素晴しい
大勢の人の役にはたたないが
時折何かのタシになったり

誰か一人のためになっている人も大切だ
　という説もある
その人は転がっている石ころや切り株の仲間だったが
道端に咲いている花の行列に思わず声を上げた
おお　この世界は素晴らしい
無名のものがこんなにも生きている！
早春の世界に訪れるものはみな不思議で美しい
満足そうな声が空から聞こえた
　ーどれもがみな私が造ったものだー

一日終る

一日に一度夜が来るのはよい
二時間毎では早過ぎ二日毎では長すぎる
今日も夜が来てよかった
今日のことは今日で終れり　明日のことは明日が思い煩う
キリストは人の心のキャパシティを知っていた
夜はみんなが帰った後で来る
夜は戸締まりをした後で来る
夜は一人になってから来る
昼の空は太陽が独り占めしているので
太陽がいない夜空は真っ暗で空っぽになる
それで留守番に家来の月や星が出るのだとおもう
月は満月のとき提灯より役に立つが比較にならない
泥棒の道案内がすむと廃墟など眺めている
星はさらに役にたたない

月下美人

夜走る船の案内程度で満天の星空でさえ足元が見えない
時折星に祈る人もいるが星はあまりに遠い
お返事が届くのはその人がいなくなってからだ
そんな夜が好きな花がある　※
目だけ光らせている夜行性の動物がいる
夜は諸々の音が消えるとかすかな声が聞こえてくる
夜は　夢の世界がおりてくる時
夢の中では何でもできる
夢の中で　あなたは花　あなたは虹
私は雲　私は竜　そして誰もが星屑
この世界は一三八億年前に生まれた夢である
昨日の世界はどこにでもいける
ただ　まだ来ていない明日の世界は定かではない
夢の中でも出来ないことがある
夢の中で逢った人を連れて帰ること　小石を一ケ持ち帰ること
この世界は　夢の中の夢　いまは　何度目の夢かな

ジジババの化粧

どんな美男美女でも
いつまでも容姿端麗とはいかない
体は衰えても心は若いのだ　という人は既に老化している
心は肉体より早く衰える
頭がよくて高学歴でも　高価なサプリメントでも（じゃまになるかも）
二千年前にも一万年前にも偉い方がいた
人にとっての大事な学齢期は保育園、幼稚園、小学校の低学年までだという
タダでできるおしゃれがある
季節の終わり落ち葉の招待状が届く
人里離れた会場でのジジババのファションショーである
キンキラ衣装をつけてステージを練り歩く人は一人もいない
審査員はドングリとヤマ猫である
審査基準は恥ずかしいことを幾つ止めたか
かっこいいことを幾つしたか

鼻毛が出ていることやフアスナーが空いていることより恥ずかしい事がある
それは自戒として150年前良寛が九九もあげている
…言葉の多き…人の傷つくことをいう…己が得手にかけていう 等
恥ずかしいことをしないだけでなく
かっこいいことをするとさらにポイントが激増する
権力者に屈しなかった荒野のヨハネ
王宮を捨てて乞食旅に出た男 ※1
白髪頭を染めて兜に香を炊き込めた武士達
高価なダイヤを深夜の海に投げ込んでほほえんだ老女 ※2
全財産飼いネコにあげると遺書を書いた資産家
長年の労が報われ賞をもらう方は素晴らしいが
希にそれを辞退する人もいる ※3
(みなもっと大きい賞を天から貰っているのである)
ジジババのファンションショーで入賞するのは健常者とは限らない
健全な身体に健全な心が宿るとは限らない
入賞者は病気で寝ている人や五体不満足の人も少なくない

想い

現在(いま)あるものはそれ以前に
誰かが(考え)想ったから在る
人間の想いが作ったもの
机　椅子　家具　自転車　自動車　飛行機
そろばん　計算機　棍棒　刀　銃　ミサイル
今在るものはすべて
始めに誰かが想像したためである
その昔　太陽や星を想ったものがいる
太古の海に三葉虫を想ったものがいる
ヤキトリにされる二匹の雀を想ったものがいる　※1
一輪の野の百合を想ったものがいる
そしてあなたを想ったものがいる
ついでに私を想ったものがいる
私を造ったのはいまの私ではないので気楽だ

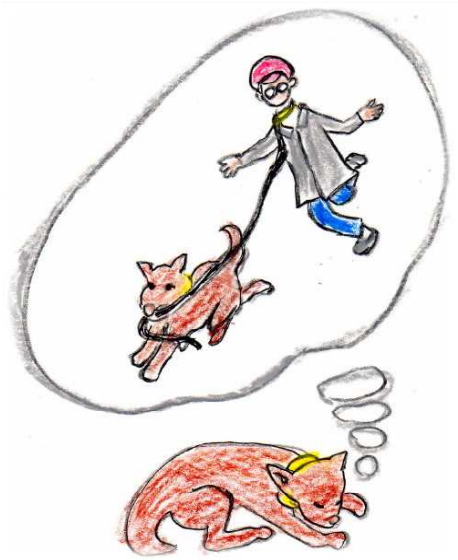
生き物にはドラマがある
生まれてすぐ亡くなった子供の一幕ドラマ
波乱重畳　苦難の末に栄誉を手にした方のドラマ
私の配役も与えられたものでさほど責任はないが
台本はかなり自由に書き込める
世界の大勢に関係ないが
昨日は友人の病気見舞いに行ってきた
貰ったお酒で昨夜はほろ酔い　何時寝たのか分からない
面白い本を読んだので電話をした　※2
今日は飼い犬と桜を見にきている

今日は昨日の想い
だから明日は今日の想いが作る
想いは花の種　明日　美しい花が咲くように
自分なりに想いの種を蒔こう
それで今日は楽しいことを想う黄金の時

夢の証拠

目が覚めたら朝だった
昨夜は久しぶりに熟睡した
熟睡した時間は短い
寝てから一時間も経過していない気がする
その間の時間がそっくり抜け落ちている
その間私はどこへ行っていたのだろう
どこかの夢の世界で私は魚だった
樹木の上で暮らしていたこともある
人間になってからは王子だったこともある
乞食だったこともある
そして目が覚める前は兎だった
私は大きな獣に追われていた
思わず大きな崖を飛んだ
途中木の枝にひっかかり

腰を激しく打つて落下した
私は天女の手の中にいた
「何もいませんよ。みんな夢の出来事です」
「王子だったこと　乞食だったこと
先ほど私が兎で大きな獣に追われていたのもですか」
「そうです。私が三つ数えるとあなたはすべて忘れます」
「こわいこと嫌なことは忘れたいけど楽しいこともあった。
思い出したくないこともあるけど忘れたくない人もいる
みんな忘れるのは困ります
いろいろな世界を見た証拠に一つくらい何か残してもらえませんか」
「では一つだけですよ」
天女は片目をつぶるとニッコリ笑いました
目が覚めて気づいたのは腰が痛いことです
それは崖から飛んで打つた時のものです
みんな夢でした
一つだけホントなのは腰が痛いことです



Ｔ・Ｍ

季節の便り

桜が散ってホッとしてます
当地を桜前線が訪れたのは丁度土日でしたが
あいにく土曜日から天候が崩れました
日曜日桜並木の川原を
雨に咲く桜を傘の中から気の毒そうに見ている人がいました
夜は橋の袂で一本の桜が街灯に照らされて咲いていました
私は暗い青春の日を思い浮かべました
数日後天気は回復しましたが
今年は花の宴はなく終りました
雨が降らなければ何軒かの屋台が出るはずでした
何十組かのパーテイがある筈でした
車椅子を押して来るはずの人もいました
それ思うと申し訳なくて
ごめんなさいと桜が散っています

…静こころなくはなのちるらむ…

桜よ　気にしないでください

前線は仙台を通り弘前につき間もなく津軽海峡を渡ります

どこかで桜の満開が晴れた休日でありますように

満開の桜の時期は三日ほどだが

桜は桜前線の中にはない

花は蕾みの中にあったものだ

蕾みは冬寒風の木の中の夢であった

心の中に桜はいつでも咲いている

この世界に現れる時は雨の日風の日希に雪の日もある

私は花のあとがすきです

これからはしばらく若葉の頃があります

若葉の緑陰は素敵です

やがてギンギラ入道雲の長い夏の日があります

昨年逢った蝉達がきます

そのあと美しい秋がきます

星に祈る

人間に絶望した人が
遠い夜空の星に祈る場合のことです
星空は古代宇宙の博物館。みな過ぎた世界(Past Word)の展示物です
一番近い星でも四年前の星の映像です
熱い恋も四年も経ったら冷めてしまいます
その後無理に逢っても見知らぬ冷たい顔で
「昔のことです。忘れて下さい」と言われてしまうでしょう
遠いお星様は古い手紙と同じです
今は無いかもしれないし　在ったとしても同じではないのです
遠い星はみな思い出の世界です
因みに今見えるヒアデス星団は「蛮社の獄」があった150年前の幕末の頃です　※1
スピカは260年前の将軍綱吉のお犬様の時代
サソリ座のアンタレスは500年前
逆らう者は老若男女皆殺しで一躍頭角を現した信長の戦国時代

オリオン座のリゲルは８００年前戦乱と疫病で加茂川に死体が溢れた応仁の乱の時代　※２
アンドロメダ星雲は１１７３年前　庶民は縦穴住居にすみ　エリート空海がいた時代
オリオン大星雲は１６００年前、中国への貢ぎ物に「生口（せいこう）」という奴隷があった時代　※３
たまたま十字架に似た白鳥座のデフネはキリスト時代のお星様です
このあたりから人の見える星は５０００年前まで
一つ一つの星は肉眼では見えなくなります
みな私達がいなかった時代です
それ以上は星雲達の世界になり１３７億年前に続きます
今日もよろしく　今日は有り難うございました
古代人が天体に祈ったのは光で八分でいけるお日様でした
お月様は一番近いところにいますが冷たい顔をしているので
孤独な人たちが密かに嘆きを語りました
今もお星さまのキラキラ光る瞳が地球を見ています
昔から地球は人の愚かさと残忍性が織りなす悲惨な物語ばかりです
ごめんなさい
私は見ているだけで何もできないのです

言葉だけ

喉が渇いている時は水がほしい
飢えている時は食べ物がほしい
寒さに凍えた時は暖炉がほしい
体のどこかに耐え難い痛みがある時は
とりあえずその痛みが消えてほしい
そんな時言葉は役に立たない

言葉が役に立つ時がある
飢えてもいず、凍えていなくても
生きているのが辛い時がある
そんな時一つの言葉が大金よりも名誉よりも
大きな贈りものであることがある
「世の人があなたを忘れても
私はあなたを忘れない」

「私はあなたが幸せなら幸せです
あなたが悲しければ悲しい」
「私はあなたがいるだけでいいのです」
　そんな言葉です

「ある女」がイエスの死期を知り跪き足に高価な香油をぬり髪で拭った
その時のキリスト・イエスの言葉である
「まことに汝らに告ぐ、全世界いずこにても、この福音が宣べ伝えられる処、
この女のなししことも記念として語り伝えられるべし」　マタイ26－8－13
その後この「ある女」がどのような生涯を送ったか定かではない
しかしキリストのこの言葉は様々な持病を奇跡的に癒された者以上に
「ある女」の心に深く刻まれたはずです
「ザアカイよ　木から下りてきなさい」　※
キリストの言葉は時を超え世を超え
今も私の心に響いています
讃美歌「ナルドの香油」は教会の外で聞いても美しい曲です

追補

冬の丘のドラマ

五頁　※　彗星捜索家　木内鶴彦著「生き方は星空が教えてくれる」サンマーク文庫

北欧の日の出

六頁　※　一月十日　二ケ月ぶりに太陽が地平線に顔を見せる。

十分程だが「太陽の日」として主に子供達によって祝われる

冬の百合

八頁　※　刈り入れ後に生えた稲　二番稲　ひこばえ　晩秋に枯れる

鷲は怒っている

一五頁　※「死帰」　著者　喜多良男

喜多良男が描いた

精霊界の入り口

「死帰」は信頼している医師池川明氏から寄贈されました。すぐ二版でましたが三版目中止されました。盗作の指摘があったためです。他の風景のスケッチを要望したあとです。どうなっているのでしょう。喜多良男さん。人気のあるものには偽物がつきものですが天国にも偽物がでたのですか。それにしてもいい景色ですね。

吉野山伝説

一九頁　※この伝説は若い頃本で読んだものです。有名な地域伝説と思ってネット検索したがヒットしない。吉野山観光協会に問い合わせたが知らないという。蓮田市には「お寅小石」というグロテスクで作意的な民間伝承があるが、私の記憶による吉野山のタイムスリップの伝説は民話としてはるかに優れている。どなたか元の伝説を覚えていたら教えて下さい。今のところ花吹雪の中に消えてしまいそうなので取り合えず拙い詩文として紹介します。

夢の国案内所

２４頁　マタイ伝５･８

自殺考

２９頁※　二〇〇六年一〇月。米国、ランカスター州の小学校に銃を持った男が乱入し教師や児童を殺傷した。十三歳の少女が小さな子を撃たぬように身代りを申しでた。次いで妹も姉に準じた。二人の少女は兇弾に倒れた。生き残った子供達の証言である。

大企業の長

３１頁※　３００種類の腸内菌の内訳は健康維持、老化防止の有用菌は約１０％、病気の引き金、老化促進の有害菌２０％、最大派閥の日和見菌７０％、日和見菌は、通常は無害だが体が弱ると一斉に悪玉菌に変身する。人間社会と同じ。

人の裏ワザ

３５頁※　不謹慎な連想であるが昔「貴方のお名前何てエうの」という娯楽番組があった。旧約聖書によればモーゼがシナイ山で同じことを神に尋ねたところ「我はありて在るところのものである」と答えたとあります。

一日終る

３９頁 ※ 月下美人の他　ヨルガオ　月見草　カラスウリ　ユウスゲ　いろいろある　南国の夜　猛暑の昼がすぎると夜行動物が現れる。夜咲く花の色は黄色か白しかないが香りが濃い。暗いので香りで虫を呼ぶ。

ジジババの化粧

４１頁　ノーベル賞を辞退した人四人。数学のノーベル賞フィールズ賞を辞退した一人。

国民栄誉賞を時辞退した人三人。文化勲章賞四人。

※１　カビラバストゥ釈迦族の王子だったゴータマ･シッダールタ

※２　映画「タイタニックの」一場面

※３　そのうちの一人福本豊(盗塁１０６５は世界記録)は名球会入りも辞退している。理由

「そんなものもろたら立ちションも出来へんようになる 」

明治の文豪山本周五郎の本名は清水三十六(さとむ)。山本周五郎は少年期から仕えた質店の主人(文人)の名である。

直木賞辞退、その他様々な賞を辞退している。　カッコイイ。

想い

４２頁　二羽の雀は一アサリオンで売るにあらずや　然るに …マタイ伝１０-２９

星に祈る

４８頁　※１「蛮社の獄」当時の政府の言論弾圧。高野長英、渡辺崋山投獄。ジャンバルジャンの刑事ジャベルの鳥居耀蔵執拗に追跡。劇薬で顔を焼いた長英の隠家を襲う。罪一族の及ぶ時代。長英の娘吉原に売られ１６才で死亡。

４９頁　※２　室町時代、京都を主戦場にした十一年の戦い。戦火、疫病の地獄絵。

※３　倭の女王が魏の皇帝への貢物内訳。真珠五千個。翡翠の曲玉大二ケ。生口三十人。

言葉だけ

５１頁　※　少年時代禅寺にいた水上努の作品に「ブンナよ木から降りてこい」という仏教色の濃い童話があります。

すぐ連想したのは「ザアカイよ、木から降りてきなさい」（ルカ・１９）という聖書の言葉です。偶然でしょうか。

春爛漫の散歩道

私家版　詩画集「第Ⅱステージ・一九の春」
平成二八年　五月一日
発行　手作り出版社
〒349-0101　蓮田市黒浜3111の2
作者　山上村人（やまのうえのむらひと）
戸籍名　大畑　善夫